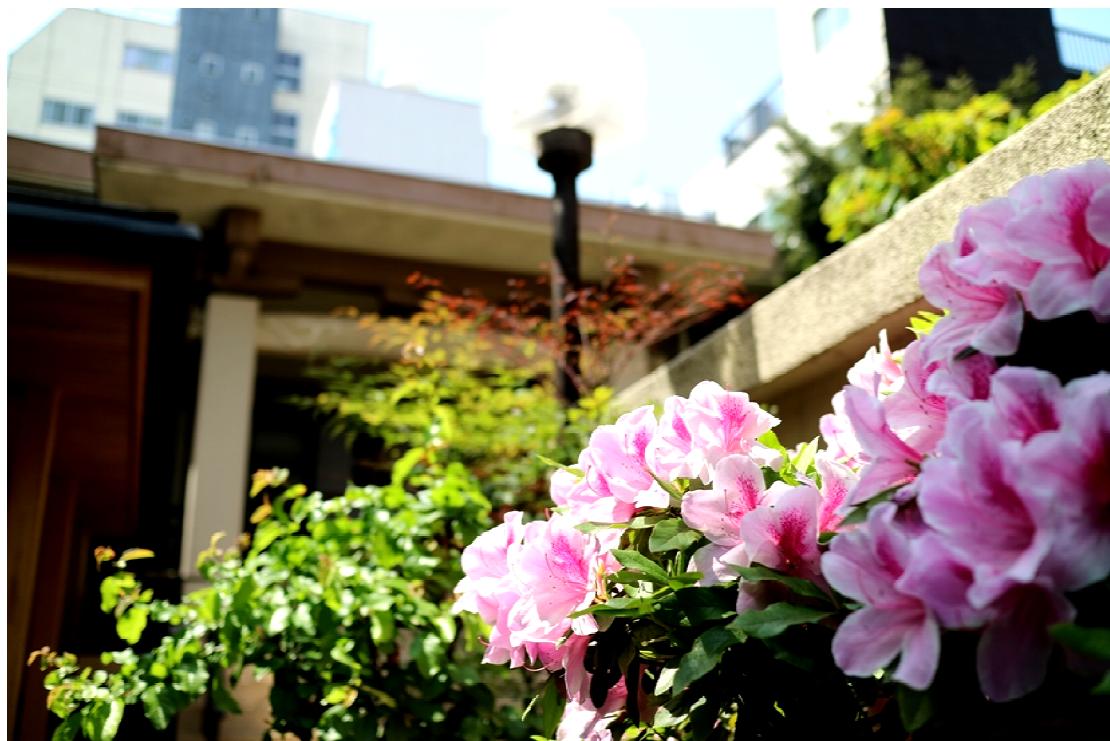


# 等友

S  
60  
10  
1  
生

〒111-0041  
台東区元浅草  
2-10-17  
3841-2844  
真宗大谷派  
勝龍山  
等覺寺  
住職  
朝倉創

平成27年5月  
第101号  
責任編集  
朝倉 翔



境内のつつじ

ありがとう

わたしには  
くるしみ も  
かなしみ も  
しつぱい も  
くろう も  
いやなこと も  
みんな 必要でした  
それで わたしになりました  
——ありがとう ありがとう

人は一生の間にいろいろなことがあります。  
いやなことにもいっぱい。もうでいいたくないと思  
うのですが——。

## 住職から一言

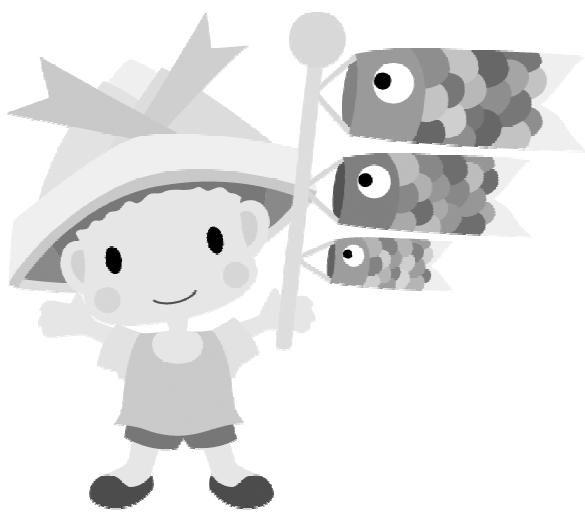
早いもので4月28日で、住職継職してから一周年を迎えました。

お寺同士の会議でも「住職」として出席するようになり、責任が重くなつたことを実感することの多い毎日です。

さて、以前ご案内しました「正信偈を読んで書いて学ぶ会」がスタート致しました。毎月第二日曜日の午後2時からを基本として開催する講座です。合同法要や法事で慣れ親しんでいる正信偈について、みなさんと一緒に学んでいきたいという願いから始まりました。初めて開催する連続講座ということで、どなたも申し込みがなかつたらどうしようと弟と心配しておりましたが、総勢13名で行うことが出来て嬉しく思つて

おります。途中参加もしやすい会ですので、是非お気軽にご参加ください。  
親鸞聖人の感動の詩である正信偈を一緒に味わいましょう！

釋創龍



## ○新年会法要

平成二十七年一月十八日、新たな年を迎えてお祓いでもどいう心になつてしまつた。お勤め後にはみなさんで楽しい会食・くじ引きで大いに盛り上がりました。一年の行事の中でも一番楽しい行事だと思いますので初めての方も次回はいかがでしようか。ここで

おみくじで大吉を引ければ今年はいいことがあるかもどいうことでその場を過ごすんでしようけど、凶が出ちゃうとそれが気になつてお祓いでもどいう心になつてしまつた。だつたら引かなければいいのにつて思うんですけどね。それでも引かずにはおれないというか、そういう私たちのあり方があるわけです。親鸞聖人のご和讃の一つにこういう和讃があるんです。

悲しきかなや道俗の良時吉日（りょうじきじじつ）、天神地祇（てんじんちぎ）をあがめつつ、ト占祭祀（ぼくせんさいし）をつとめとす

要は僧侶も一般の方々も、いい吉日を選んでいたり、神さままたはそういうものを崇め

つつ、占いやまつりごと、そういうことに一生懸命つとめている、と。こういう姿を見て、それを親鸞聖人は悲しきかなや、という言葉でおさえられていると思います。

日本人は昔から占いやおみくじをするのがむしろ一般的なほうですから、こういうことを教えてくださっています。

## 新年会法話

## 1. ご利益（ごりやく）

浄土真宗を開かれた親鸞聖人は一般的に言われる現世利益（げんせいりやく）、現世のご利益というものは、決して本当の意味での私たちのご利益ではないんだということを教えてくださっています。

迷信だと分かってはいながらそれに頼りながら今を生きてるわけですね。その裏返しには、そういうことに頼らないとどこか落ち着かないような私たちの日頃の姿があるということを親鸞聖人が教えてくださっていると思うんです。そういうものに頼らなければ落ち着きを求めることができない。イコール私たちは今の生活に不安を常に抱えながら生きている



んではないかということですね。そういうことをこのご和讃からも教えてくださってるような気がするんです。特にこのト占祭祀、要是占いですけれども、占いとかっていうのは開運なんかって言いますね、開運、運を開くと。占いによって人生を開いていきましょうと。そういうことを占い師さんとかはうたつております。ですが、本当にそうなのかとい



うことですね、占いが悪いければそのことに苛まれて何か常に気になってしまって、少しでも悪いことがあるとあの占い当たつてるかしらとかそういうことになってしまふ。要は決して道を開くものではなくて実はそういうものによつて縛られてしまう私たちがいるんじゃないかと思うんですね。そういう私たちの本当のあり方というのを親鸞聖人はこの和讃で教えてくださつてあるんじやないかなと思うんです。親鸞聖人は『歎異抄』<sup>たんにしよう</sup>という書物の中で、「念佛は無碍の一道なり」と、こ<sup>むげ</sup>うおつしやつてるんです。

南無阿弥陀仏という念佛は感謝の言葉です。よくご説明してゐる通り阿弥陀さんはもうすでに私たちを救おうとされています。私たちは決して何かへすがつたりするのではなくて、阿弥陀さんが、自分の力ではどうこうすることもできない私たちを救つてくださつてるんだから、ただただ感謝の言葉として念佛を申

すだけでよいと。このことを念佛というのですが、この念佛は一切さわりのない一つの道であると。これはこの道しかないということではないと思うんですね。人生はいろんな道があるんですけども、その中から親鸞聖人は阿弥陀さんの救いのもとへ行こうという一つの道を選ばれています。その道はさわりが一切ないのだと。親鸞聖人ご自身、淨土の教えによつて、こういう境地になられたわけですね。

ですから今年は何を申したいかというと、年始の挨拶として、改めて日頃の私たちのあり方を顧みて、そして親鸞聖人のおつしやるこの無碍の一道というものをぜひ皆様と一緒に一生かけて歩んでいきたいなと思います。仏教の教えというのには、本当の自分が見えてくる教えですから、何かを頭で理解するということではなくて、自分のあり方というものが仏さまの光に照らされることによつて見え

てくる。そして歩んで行く道が見えていく。

それが本当の仏教のご利益であります。ですから、今年一年ケガがないとか病気がないとかそういうことを願ってしまう私たちのあります方がどうしてもありますけれども、それを、お守りを買ったから安心とかそうではなくて、病に倒れてもけがに倒れても、そういうことも私の命の一部なんだと、そうやって受け止め歩んで生きる。そういう私たちの本当の意味での力強さというか、迷信に惑わされない強い生き方というのを皆様と一緒に改めていきたいと願いまして、ご挨拶とさせていただきます。（法話 釋創龍）

## ○春彼岸・永代経法要

平成二十七年四月二十七日にお彼岸・永代経法要をお勤めいたしました。この日も多くの方と一緒にご先祖さまへいただいている方を感謝するお勤めをさせていただくことができました。永代経法要は会食ではなくお弁当をお持ち帰りいただく形式ですので、会食が苦手な方もお参りしやすいかもしません。住職からのご法話は、みなさんの家にあるお内仏（お仏壇）のお話しへさせていただき、日々の疑問にこたえるような身近なお話となりました。



## 厄年？厄除け？厄払い？

よく年末年始が近づきますと連日のようになります。厄除けは〇〇へお参りを、とテレビCMで放送されています。私たち日本人にとつては厄年・厄除けというのは一般的に定着しています。ただ、今まで等覚寺へお参りされた時に厄除けをやつていたこと、見たことがありますか？ そうなんですね、私たち浄土真宗では厄除けはしないんです。ご存知の方も多いかと思いますが、今回はあらためて簡単にお話しさせていただきます。

そもそも厄年つてなんなんでしょう。厄除けをされている神社・寺院に行くと必ず男女の厄年の年齢が張り出されています。その年齢のあたりに災厄が多いと昔から言い伝えられていました。では厄年の由来はどこから来ているのでしょうか。はつきりとした根拠はないのですが、中国の陰陽道から来ている

ようです。陰陽道は天文や暦・占いの知識を合わせて吉凶を占う方術ですが、それによると数え年で男性は四十二歳、女性は三十三歳が大厄とされています。四二（死に）三三（散々）ということでお私たちになんらかの災いが起きやすいと言われているようです。これが厄年です。そしてこの厄が自分に降りかかるらしいように願つて行うのが厄除けなんですね。

厄年には病気や不幸など、何かしら良くなきことがあると言われますが、病気や不幸は厄年にだけおこるものでしょうか。厄年でない年は病気や不幸が全くないと言いきれるのでしょうか。それでも厄年には病気や不幸があると言われてしまうのは、厄年に病気や不幸がおこると「厄年だから」という理由の後付けができるからではないかと思います。厄年でなくとも「厄年に近いから」「家族に厄年がいるから」と理由の後付けはいくらでも

できてしまします。つまり厄年だから病気や不幸を何かのせいにしたいという私たち人間の欲があるのです。

では実際に私たちの仏教の教えでは厄についてどう考えられているでしょうか。仏教を開かれたお釈迦様は、人は必ずこの世に「生」まれ「老い」ていき、「病」に倒れ、そして「死」をむかえるものであるとおっしゃいました。どう避けようとしても避けられない老病死た。どう避けようとしても避けられない老病死の人生をどう生きていくのか、これが仏教の教えの始まりです。つまり生きている限り苦しみは必ずあるものだ、という考え方なのです。苦しいことはなるべく遠ざけ、良いことを招きたいというのは私たちの願望（欲）ですが、そうはならないのが私たちの姿なのです。親鸞聖人の師である浄土宗を開かれた法然上人も、祈ることによつて、病気が治つたり命が延びるのであれば、誰一人として病気になつたり死んだり

ないでしよう、とおっしゃっています。

仏教徒として生きる以上、仏教の教えにない迷信（厄年、占い、風水、姓名判断、六曜など）を気にする必要はありません。つまり、「除災招福」をしないのが私たち仏教徒です。淨土真宗はかたくなにこれを守つてきました。ですから等覚寺でも厄除けはいたしません。いただいた一年を「厄年」という言葉に縛られてビクビクと生きるより、予期せぬ出来事が起きたら起きたでそれをご縁として生きていく、そんなすべてが尊い一日一日をお念佛申し上げながら過ごしていきたいのです。

## ◎先代住職法語集のご案内

十七世住職 朝倉馨の法語を集めた簡単な本を作りました。

法語とは門前の掲示板に掲示していたもので、先代住職を偲ぶ会にいらした方から大変ご好評をいただいたため、ご希望される方にもお作りすることにいたしました。

一冊千円の実費のご負担でお作りいたしますのでよろしければどうぞ。

ご連絡いただいてから製作いたしますので、必ずご希望する日よりも前にご連絡ください。

## 等友へのご懇志

鳴海恵三様 浅井京子様 加藤伊知郎様  
保田ふみ様 万代ゆきこ様 福原次郎様  
高橋健治様 小笠原時子 (順不同)

いつもご支援いただきまして、誠にありがとうございます。また、他にも多数の方から等友へのご支援をいただいております。  
(申し訳ございませんが、お名前には漏れがあるかと存じます。おっしゃっていただければ次号以降に順次ご紹介させていただきます)

ご披露

## 備忘録　～法事の準備～

### ○まずはお寺へ日程連絡

回忌の確認をし、ご家族で法要希望日をお決めになりお早めにお寺へ連絡ください。

### ○当日必要なもの

- ・お布施

- ・お花代（本堂にお飾りする

### ○お花代で、一万円の実費

### ○ご希望によりてお持ちください

- ・お供物

- ・過去帳やお位牌

- ・遺影（小さじもの）

### ○服装は平服でも結構です。

（→）参加される方同士でお話しされでお決めください

※お寺へお包みいただき表書きは全て「布施」と書いていただければ結構です。浄土真宗の場合は「読経料」「仏前」という言葉は用いません。

## 備忘録　～お焼香作法～

### ○お焼香のタイミング

お勤め中に声が掛かりますので、それまでお待ちください。順番には決まりはないので、施主の方から前に出てお焼香ください。

### ○お焼香作法

・焼香机の前に進み合掌せずに本尊を仰ぎ見ます。香盒（香入れ）の蓋を開けて香盒の右に置きます。

・右手でお香を二回、香炉にくべます。（お香を額に頂くことはしません）お香の乱れを指先で直してから「南無阿弥陀仏」を称えて合掌礼拝をします。

・自分の後にお焼香する方がいれば蓋はそのままにし、最後であれば蓋を閉めて自席に戻ります。

## 編集後記



「んにちは、釋 翔雲（弟・翔）です。今年の春は天気が安定しませんね。上野公園の桜も満開直後の雨や風であつて、つい間に散ってしまい、お花見のタイミングを逃してしまいました。花より団子なはずなのに悔しいのは不思議ですね。やっぱり物事は後回しにしてはならないことをあらためて気付かされた気がします。

さて、今回は厄年について記事にしてみました。

僕も神社等に行くと必ず厄年のポスターが貼られていて不安な気分にさせられますよね。厄除けを否定するわけではないのですが、何かにすがらずにはおれない私たちの姿というのをあらためて感じてもういたいなと思ったのです。厄除けやおまじないってありが無いと思いませんか？一度お願ひして悪いことが起きなければ、次はお願ひせずにはいられなくなっちゃいますよね。逆に悪いこと

が起きたら、それがおまじないのかもしれません。おまじないが悪いものとは言いません、占いも結果に一喜一憂するのは楽しいことです。ですが、そこにはがるのではなく、私たちの本来の姿をきちんと理解した上で楽しく付き合つていくことが大切なのではないでしょうか。厄除けの話ですが、僕も受験の時は湯島天神にお参りしましたしね（笑）

さて、四月からお寺で正信偈講座が始まりました。正信偈を書き写すことができる本山の教材を使って、正信偈を実際に書きながら、勤め方や意味も一緒に勉強しています。一見すると難しそうですが、まつたくそんなことはなく、雰囲気も気楽ですのでぜひ参加してみてください！

# 平成二十七年行事予定

五月十日（日）	一周忌	平成二十六年
六月十四日十五日	等友旅行会	平成二十五年
六月二十一日（日）	正信偈講座	平成二十一年
六月十九日（金）	真宗門徒のつどい (於・真宗会館)	平成二十一年
七月十三日～十六日	お盆	平成十五年
七月十八日（土）	盂蘭盆会法要	平成十一年
八月九日（日）	正信偈講座	平成五年
九月十三日（日）	正信偈講座	平成元年
九月二十日～二十六日	秋季彼岸	昭和五十八年
十月三日（土）	いのちのふれあい ゼミナール	昭和五十四年
十月二十五日（日）	報恩講	昭和四十八年
十一月八日（日）	正信偈講座	昭和四十一年
◎みなさまお誘い合わせの上、		昭和二十一年
お気軽にご参加ください。		大正五年

# 平成二十七年年回表

百回忌	一周忌	平成二十六年
四十五回忌	三回忌	平成二十五年
五十四回忌	七回忌	平成二十一年
五十九回忌	十三回忌	平成十五年
七十回忌	十七回忌	平成十一年
大正五年	二十三回忌	平成五年
	二十七回忌	平成元年
	三十三回忌	昭和五十八年
	三十七回忌	昭和五十四年
	四十三回忌	昭和四十八年
	四十七回忌	昭和四十四年
	五十九回忌	昭和四十一年
	七十回忌	昭和二十一年